

「解体工事」も中断 ガス化溶融炉

私は、59号で「ガス化溶融炉解体中」を書きました。その後、解体が終了していない現地を見て「なぜ」と思っていたら、実は解体事業者が28億円の負債を抱えて民事再生法申請、つまり破産して解体工事が中断していることがわかった。県は、再入札して事業者を決めることになったという。



受注業務丸投げで廃棄物処理法違反

さらに、廃棄物処理センターガス化溶融炉の事業者である三重県環境事業団が、産業廃棄物処理で自ら受注した業務を産業廃棄物処分業の許可を得ていない市内の民間業者に再委託（丸投げ）していたことが3月判明した。

廃棄物処理法違反の環境事業団に対し三重県は最終処分場の使用停止90日間の行政処分をおこなった。環境事業団は、三重県のOB部長らの天下り先になっている。元県職員が「法令違反の認識がなかった」とは恐れ入る。

多額の税金で必要のないガス化溶融炉を建設し、わずか7年で稼働停止、その後の解体費用に8億円、解体業者が倒産でとん挫、そして、極めつけは法違反の業務投げとはあきれ。やっぱり、「呪われた施設」のように映る。この事実当該事業を推進し「環境先進県」を豪語していた元県知事のコメントは聞かない。

ムッシュ・かまやつ 逝く ♪下駄を鳴らして奴が来る



ミュージシャンのムッシュ・かまやつ（本名：釜菴弘）さんが3月1日、すいガンのため都内の病院で死去した。78歳だった。1960年代には「ザ・スパイダース」のボーカル兼作曲家として「ノー・ノー・ボーイ」「バン・バン・バン」「あの時君は若かった」などを発表。グループサウンズの先駆けとして活躍した。1975年、「シンシア」で共演した吉田拓郎・作詞・作曲の「我が良き友よ」をリリース。「♪下駄を鳴らして奴が来る…」と、古き良き「バンカラ」な男性の姿を歌った。

映画「わたしはダニエル・ブレイク」

カンヌ国際映画祭授賞式での監督の言葉が鋭かった。監督ケン・ローチは「私たちが生きているこの世界は今非常に危険な状態にあります。映画というものは多くの伝統を担っている。そのうちの1つが“抗議”という伝統。権力に対する人々を前面に押し出すような映画で、私はその伝統を引き継いでいきたい。この絶望の時代に希望をもたらすべきなのです」と力を込め、喝采を浴びた。



はじめのいっ歩

2017年4月10日（月）発行



第60号 四日市市議会議員 日本共産党

せいすけ
かとう 清助

住所 四日市市桜町537-2

TEL 059-326-2215

ホームページ <http://sekato.jcpweb.net/>

Eメール watcosmos@cty-net.ne.jp

この冬は、20数年ぶりの大雪に見舞われたこの地域ですが、3月に入って日ごとに春の気配を感じられて来たのではないのでしょうか。この号が届く頃には桜満開で「ピカピカの1年生」の元気な姿が見られているでしょうね。

春は「希望」を感じる季節でもあり、入学・入園とともに社会への一步を踏み出す季節でもあります。振り返ってみると私は、20歳の頃、新聞求人広告3行欄を見ながら「仕事」を探して、社会への一步を踏み出した記憶があります。春といえば「大相撲春場所」でしたが、東に「豊洲市場」、西に「森友学園」・・・政治の「闇」が噴出していることに不信と憤りをもっておみえの方も多いかと思います。何が問題で真実は何かを政治が解明し、責任の所在を明らかにすることが求められる。政治の「春」はいつ来るのか？

そんな思いをお持ちの方、ごいっしょに「あきらめない」で行こう、「主権者」は、私たちなのだから。

さて、今号は、2月10日から3月24日まで開催された定例月議会関連や時の話題、みなさんと一緒に考えたいテーマについて書いてみました。みなさんの率直なご感想、ご意見、ご批判などお寄せいただければ活動の糧にできるのではないかと考えています。

仁義を大事にする政党だから・・・

IWJ（インディペンデンス・ウェブ・ジャーナル）の岩上安身氏は共産党・小池晃参議院議員との対談で、籠池理事長が、「ある国会議員に陳情していた」と追及された直後、自民党の鴻池議員が「自分が陳情を受けていた」と記者会見を開いたことについて、小池議員に「なぜ国会で鴻池さんと言わなかったのか」に小池議員は「情報源」はしっかり守り抜くと言うことです。情報提供を受けた時にいろいろと条件がある。共産党は仁義を何よりも大事にする政党ですから」と答えた。



森友に「特別の力学」？ 疑惑隠しの異常さ

「国会に呼べ、どちらかがウソをついている」の世論になかなか応じなかった自民党・公明党だったが、3月16日、証人として籠池氏に国会への出席を求めることに合意し、3月23日、衆議院・参議院で証人喚問が行われた。今回の国有地払い下げは、財務局の提示価格の10数%だった「爆安」、非常に短い時間で払下げが決まったことに特別の力学が働いたのではとの疑念がある。

保育園落ちた！ 「不承諾」通知 182人



4月は、入園・入学のシーズンだが、今は「保活」と言う言葉もある。何のことはない保育園の入園活動だ。私は2月、市議会各派代表質問で「保育園落ちたの私だ」「保育士辞めたの私だ」のブログ拡散から1年だが「四日市の待機児童ゼロ宣言はいつになるのか？」と問いました。市長が子育て世代で「子育てするなら四日市」と言われても待機児童が県下最多の四日市では、住みたくなるまちに選ばれない、定住は避けられてしまうのではないかと問いました。4月新学期を前に毎年、2月初旬に入園申込みに対する一次選考結果が通知される。

今年は、1684人の申し込みに対し、182人に「不承諾通知」が行われました。

昨年より121人よりも増加。申込者10人に1人が不承諾通知だった。3月に二次選考調整のうえ、最終4月入園時の「待機児童」が確定する。昨年の待機児童は4月時点64人、10月時点では142人にのぼった。

待機児童ゼロの四日市はいつになるのか

市長は、「平成29年度に90名、平成30年度に60名と150名の2園の民間保育園が開園予定で、さらに平成31年度に190名の保育園整備について事業者と協議をすすめている。また、公立園では受け入れ児童数を平成26年度比192名増加している。平成29年度には橋北こども園で新たに0歳児保育を開始し、低年齢児の保育枠を40名拡大している。平成31年度には必要な入園枠を確保できる見込み」と答弁。

高齢者にシルバーパスを

また、私は8項目の事案について市長に問いましたが、その中で公共交通「コミュニティバス支援事業」について取り上げました。新年度予算では、NPO生活バス四日市支援費513万円、自主運行バス3路線「磯津高花」「神前・高角」「山城富洲原」の委託費4600万円が計上されています。また、新たに「デマンド交通導入検討費用390万円」が計上されました。

この数年、公共交通空白地域における社会実験が約600万円で桜・水沢と内部地区で取り組みましたが実験を受けて実施には至りませんでした。

今度の「デマンド交通」と言うのは定時定点路線ではなく「予約乗合」方式で公共交通の不便地域で高齢者の移動手段を確保支援しようとするものです。

私は、予約型デマンド交通の検討もいいが、公共交通の利用増を図るためには、事業者の努力と自治体、市民の取り組みが大切で、「あすなろう鉄道」しかりだと指摘し、他市で実施されている高齢者向けの「シルバーパス」＝運賃を市が補助する制度を四日市市でも導入してはどうかと提案しました。バス運賃は鉄道よりも割高で負担が重くなり、利用者も減少するばかりで、利用者が減ると路線が減便・廃止されると言う悪循環になっている。



市長は、所信表明で「子育て支援と産業振興の取り組みを優先させる」と言うが団塊の世代が75歳を迎える2025年問題が焦眉の課題と言われている。高齢者の移動、社会参加を支援する、せめて運賃半額になるシルバーパスの実現を求めました。市長は「予約型のデマンド交通に着目している。一方で鉄道駅やバス停に近いところではその路線を利用していただくことが重要。シルバーパスの導入については、適正な公費負担のあり方など含め検討してまいります」と答弁。三重交通では、本年3月から運転免許返納者へのバス運賃割引制度やセーフティパスの値下げを実施しています。

メガソーラーの規制を求める

住民請願「審査延長」

市内に2つの大規模太陽光発電事業が計画されています。今議会に、大規模な山林の伐採、土地の改変で里山が失われ、区域に生息する絶滅危惧種に致命的な影響を及ぼしたり、防災上の影響も懸念される中、事業区域や規模など規制を求める請願が提出されました。請願は都市環境委員会において請願者からの意見陳述をうけて質疑・討議が行われました。しかし委員会では、国、県においてガイドラインの検討が行われていることから現時点で請願に対する採決を行うのではなく、その動向を見るために「審査延長」とすることが多数決で決まりました。

審査・採択を 今こそ

私は、最終日3月24日本会議で「4月末まで審査延長しても国・県のガイドラインが明らかになるのは6月以降である。今、市議会が主体的に住民の請願に応え、四日市の現状と今後をみずえることが大切であって、国や県の動きを待つのではなく本請願を今議会で採決、採択すべきである」と延長反対討論に立った。採決の結果、延長に賛成16、反対16の同数となり、議長採決で「延長」となった。

桜駅エレベーター設置計画

四日市市の4か年計画（平成29～32年）に鉄道駅バリアフリー化事業がある。鉄道駅のスロープや多機能トイレ、手すり、エレベーター設置を内容としています。エレベーターの設置は、一日の乗降客数が3000人以上の駅が対象で、市内ではJR四日市駅、近鉄塩浜駅、富田駅に続き、平成29年度阿倉川駅への設置の次に「桜駅」が計画対象となり、平成30年度設計、平成31年度エレベーター2基、多機能トイレ設置が予定されています。事業費は概算約3億円、市負担は6分の1の約5000万円。近鉄名古屋本線管内では初の「構内外併用エレベーター」となる。桜駅は地下で改札、ホームへと「降りて、のぼる」構造で高齢者のみなさんには利用しづらいと、高角駅を利用している方もいます。

この計画について、「切符を買いにエレベーターで降りて、またエレベーターでホームに上ると言う整備に多額の税金を使うのか？」の声も寄せられています。

